2017年11月13日(月)
平成29年度公立小中学校「教育課程編成・実施研修協議会」
含む「新学習指導要領対応授業力向上研修」
14:40-15:10 @ 静岡県総合教育センター

講義Ⅳ：学校教育目標と各教科で育てたい資質・能力をどう結ぶか ～評価を介して～

しろうず　はじめ
白水 始
東京大学 高大接続研究開発センター 教授
国立教育政策研究所 フェロー

大事にしたいこと

- 抽象と具体をつなぐ（わかりやすく考える）
- 「～しなさい」から「～したくなる」環境作りへ
- 評価の対象は個人より環境（＋環境のデザイナー）

講義Ⅰのスライドから

学校教育目標

「伝え合う力」
「学び合い」
「温かな心」
「聴く」
「相手の立場に立って考える」
「自立」

大事にしたいこと

学校教育目標

「伝え合う力」
「学び合い」
「温かな心」
「聴く」
「相手の立場に立って考える」
「自立」

- 抽象と具体をつなぐ
  - この教科で「伝え合う」「学び合う」「聴く」「相手の立場に立って考える」とはどういうことか？
- 「～しなさい」から「～したくなる」環境作りへ
  - 「伝え合いなさい」ではなく「伝え合いたくなる」環境（授業，学校）になっているか？
- 評価の対象は個人より環境（＋環境のデザイナー）
  - 各児童生徒の伝え合いの得意不得意ではなく，みんなが伝え合いたい環境になっていたか？

目次

- 新学習指導要領の方向性を見据えて
  - 今求められるカリキュラム・マネジメントとは
  - 今求められるアクティブ・ラーニングとは
- CoREFの考えるカリキュラム・マネジメント
- サイクルを回す鍵としての評価

学校教育を通じて 子供たちに育てたい姿@新学習指導要領

- 社会的・職業的に自立した人間として、我が国や郷土が育んできた伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、理想を実現しようとする高い志や意欲を持って、主体的に学びに向かい、必要な情報を判断し、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばし、人生を切り拓いていくことができること。 **自立**
- 対話や議論を通じて、自分の考えを根拠とともに伝えるとともに、他者の考えを理解し、自分の考えを広げ深めたり、集団としての考えを発展させたり、他者への思いやりを持って多様な人々と協働したりしていくことができること。 **協働**
- 変化の激しい社会の中でも、感性を豊かに働かせながら、よりよい人生や社会の在り方を考え、試行錯誤しながら問題を発見・解決し、新たな価値を創造していくとともに、新たな問題の発見・解決につなげていくことができること。 **創造**

中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（平成28年12月21日）

学校教育を通じて 子供たちに育てたい姿@子供の言葉で

- 社会的・職業的に自立した人間として、我が国や郷土が育んできた
  現しようとする高
  要な情報を判断
  と切り拓いていく
  ことができること。

学校で学んだから，私にはたくさん言いたいことがある。

自立

- 対話や議論を通じて、自分の考えを根拠とともに伝えるとともに、他
  団としての考え
  人々と協働したり
  していくことができること。

私は人と話し合って，自分の考えをよくすることができる。

協働

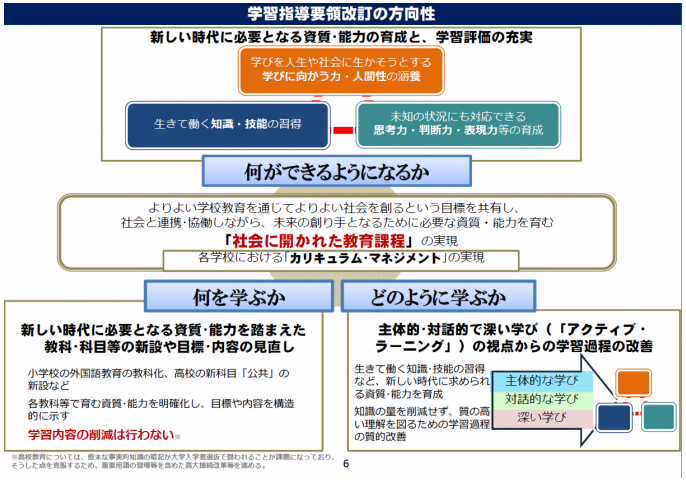
- 変化の激しい社会の中でも、感性を豊かに働かせながら、よりよい
  題を発見・解決し、
  発見・解決につな
  げていくことができること。

私は違う考えも一緒にして，新しい答えや問いを自分で見つけてゆける。

創造

援学校の学習指導要領等の改善
解について」（平成28年12月21日）

一人ひとり違う子どもたちが内容をどう学び 何ができるようになるかまで考えて 教育をデザインする＝カリキュラム・マネジメント



「幼稚園、小学校、中学校、中学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（H28.12.21）

「一人ひとり」の例

- 今はまだ字はうまくないが、書道を志して、ぜひ仕事にもしていきたい生徒A
- 理科（科学）がやたら好きだが、後の教科には興味がない生徒B

教科を横断して学びをつなぐ
高1　書道1＋化学

〈課題〉「水」という文字を墨と半紙の化学的性質を生かして，より「水」っぽく表現しよう

〈部品〉

A. ろ紙につけた赤いインクに違う濃さの墨をたらすと，広がり方はどう違うか（ペーパークロマトグラフィー）

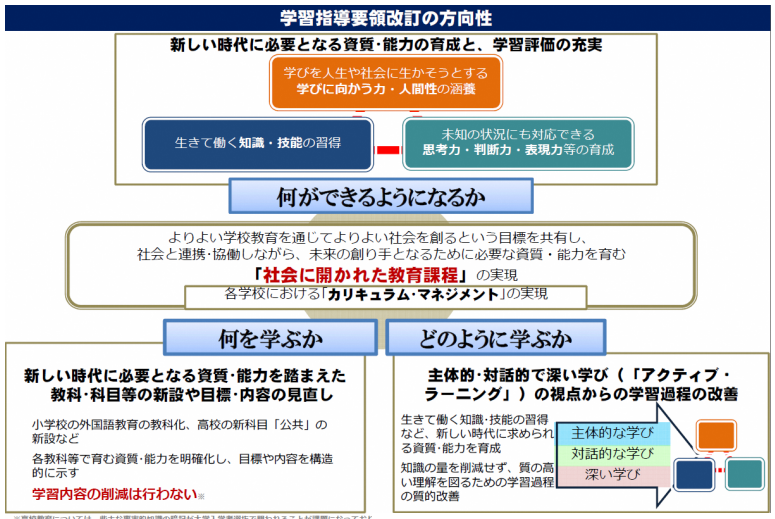
B. 三種類の半紙を一斉に墨につけると，吸水速度や粒子の拡散はどう違うか

C. 水墨画の経緯と表現

「一人ひとり」なりに伸びる例

- 今はまだ字はうまくないが、書道を志して、ぜひ仕事にもしていきたい生徒A
  ⇒「書道の勉強に役立つことは他にもある？」
- 理科（科学）がやたら好きだが、後の教科には興味がない生徒B
  ⇒「科学が関係することは他にもある？」

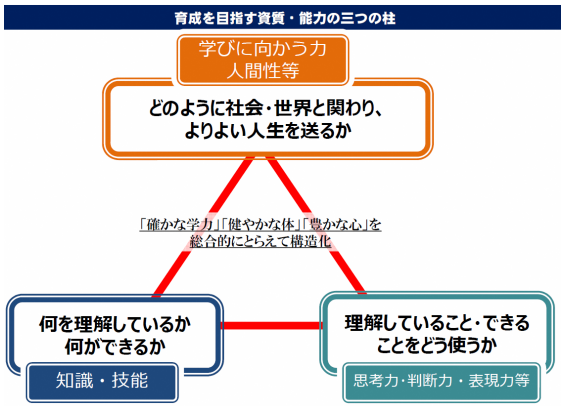
各学校で創意工夫して実践
⇒学校だけでは大変なので社会も一緒に



※高校教育については、痕未な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（H28.12.21）

「何ができるようになるか」



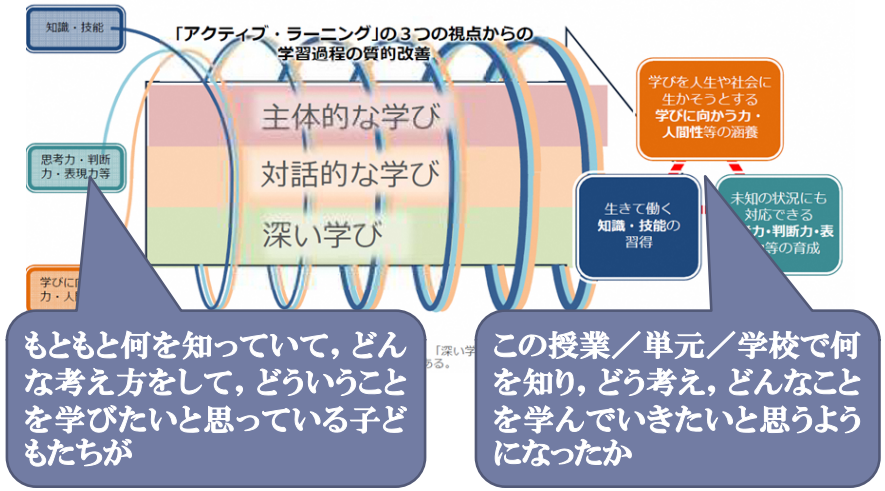
①生きて働く「知識・技能」の習得

②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成

③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養

「どのように学ぶか」

- 主体的・対話的に深く学ぶ



アクティブ・ラーニングの位置付け

（「アクティブ・ラーニング」は）形式的に対話型を取り入れた授業や特定の指導の型を目指した技術の改善にとどまるものではなく、子供たちそれぞれの興味や関心を基に、一人一人の個性に応じた多様で質の高い学びを引き出すことを意図するものであり、さらに、それを通してどのような資質・能力を育むかという観点から、学習の在り方そのものの問い直しを目指すものである。

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善　及び必要な方策等について（答申）」（H28.12.21）

⇒まさにPDCAサイクルで実現していく

目次

- 新学習指導要領の方向性を見据えて
  - 今求められるカリキュラム・マネジメントとは
  - 今求められるアクティブ・ラーニングとは
- → CoREFの考えるカリキュラム・マネジメント
- サイクルを回す鍵としての評価

環境が変われば人は変わる

- 授業が変われば子どもは変わる
- 学校が変われば先生は変わる
- 自治体が変われば学校は変わる
- 国が変われば自治体は変わる

→「変わりたい」と思いたくなる学習環境のデザインで勝負

→そのための「鍵」(key driver)がCoREFの場合は協調学習

「協調学習」という鍵

- 「アクティブ・ラーニングが大事」だとは言っても,
  - 「正しい」話し合い方が定着していないと無理でしょう
  - 基礎学力がないと難しいでしょう

- 「子どもはみんな、自分で考えて学ぶことが得意だ」と思ってみれば、
  - 「得意」を引き出せる環境のデザインが大事
  - 責任はこっち(大人)にある

潜在的に持つスキルを発現する「必然性がある」

「協調学習」が起きやすい環境

- 一人では充分な答えが出ない課題をみんなで解こうとしている
- 課題に対して一人ひとりは「違った考え」を持っていて、考えを出し合うことでよりよい答えをつくることができる期待感がある
- 考えを出し合ってよりよい答えをつくる過程は、一筋縄ではいかない
- 答えは自分で作る、また必要に応じていつでも作り変えられる、のが当然だと思える

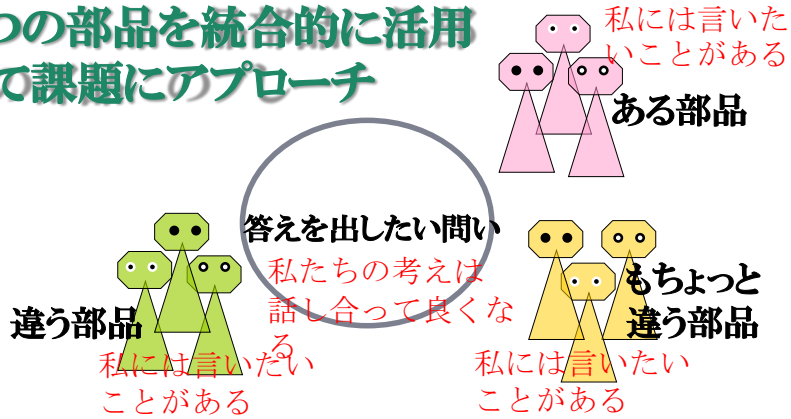
潜在的に持つスキルを発現する「必然性がある」環境を教室に作り出す仕掛けのひとつ

知識構成型ジグソー法

「一人では十分な答えが出ない」本時の課題に対して、一人ひとりがまず自力で考えてみる

エキスパート ⇒ジグソー

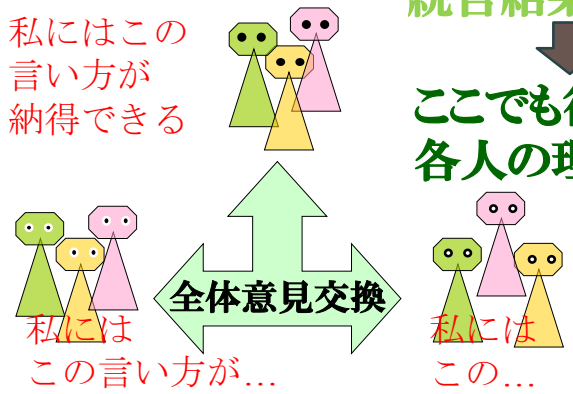
3つの部品を統合的に活用して課題にアプローチ



ジグソー⇒ クロストーク

グループ毎に違う統合結果を交換

ここでも役割交代して各人の理解が深化



最後は一人で書き留める

今ならこう書ける！

授業の型を使って狙いたい教師像

●「技術的熟達者」としての教師（佐藤, 1997）

「教科と教授法の知識をたくさん正確に習得して、正しく授業に適用することがわたしの仕事」

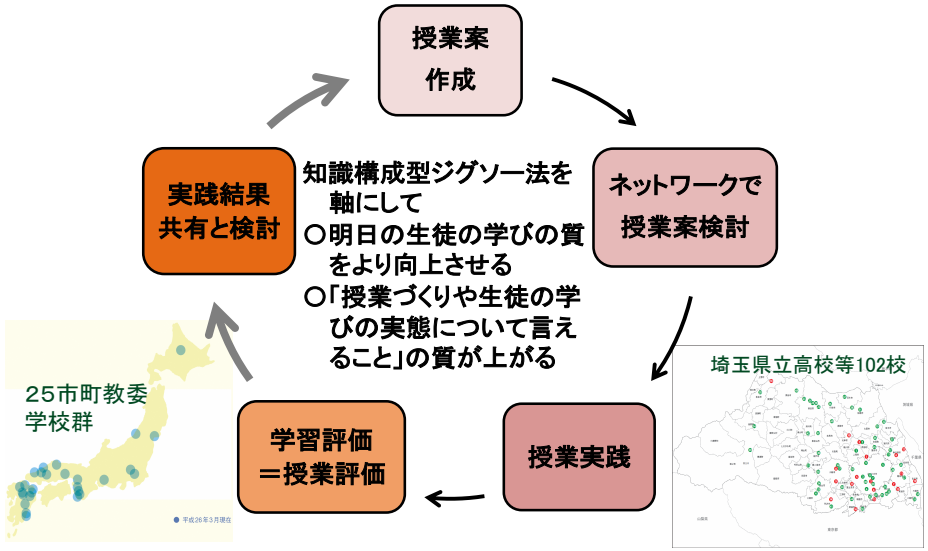
⇒「これでジグソー授業になっているでしょうか？　勉強になりました。次はどうしたらいいですか？　そろそろ合格ですか？」

●「反省的実践家」としての教師（佐藤, 1997）

「教科や教授法についての知識と、子どもの実態を考え合わせ、学びの質を継続的に上げていく支援をするのが教師の仕事」

⇒「こう考えられるからこう試してみた。その結果こうなったから、最初の考えを見直して、次はこうしよう」

授業デザインのPDCAサイクル：サイクルを二回回すことが大事



CoREFのPDCAサイクル ⇒カリキュラム・マネジメント

（「アクティブ・ラーニング」は）形式的に対話型を取り入れた授業や特定の指導の型を目指した技術の改善にとどまるものではなく、子供たちの多様で質の高い学びを引き出すことを意図するものであり、さらに、それを通してどのような資質・能力を育むかという観点から、学習の在り方そのものの問い直しを目指すものである。

➡知識構成型ジグソー法の授業の型を共有することを出発点として、授業デザインや学びの理解そのものの深まりを目指す。

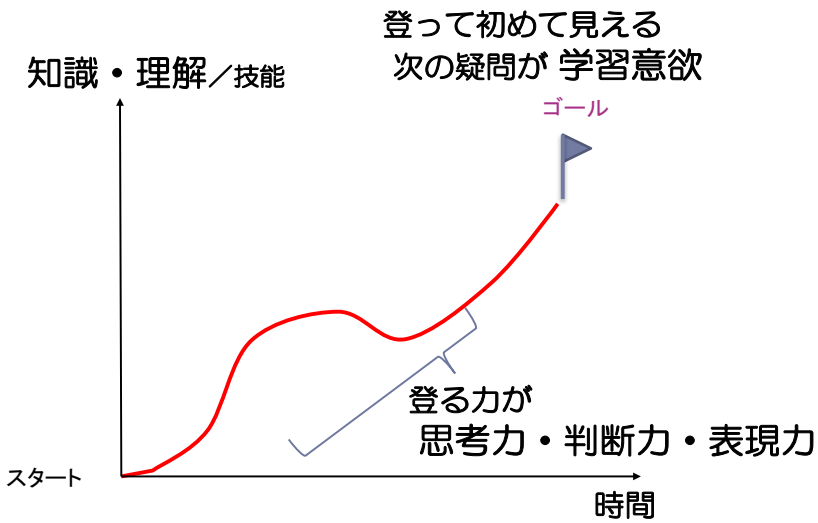
目次

- 新学習指導要領の方向性を見据えて
  - 今求められるカリキュラム・マネジメントとは
  - 今求められるアクティブ・ラーニングとは
- CoREFの考えるカリキュラム・マネジメント
- サイクルを回す鍵としての評価

これからの評価

- 今日の授業を明日につなげる形成的評価
  ⇒演習Ⅰと講義Ⅴで
- 小中の学習を高大社会につなげる小中高大接続
  ⇒講義Ⅴで

AL＝前向き授業のための評価観（イメージ）



変化を評価する

- 事前事後記述
  - 達成度だけでなく，事前から事後への変化を見取る
- 子どもをじっくり見て考え方（理解）の変化を追う
  - なぜ変化したのかが見えてくる
  - 全員がそれぞれ多様な考える力を持っていることが見える
  - 授業を変えて子どもの力を一層しっかりと引き出したくなる
- 教えたいことと子供中心の学びを同時達成する授業デザインへ
  - 教えたいこと：山の高度
  - 多様性：登り方，山頂の着いた場所，そこから見える次の山

一つの授業で

1. 同じ問いを二回聞く⇒違いが見える（事前事後の期待をはっきりする）
2. 評価基準を具体（どういう言動を期待するのか）に落とす⇒同じデータでも見方が変わる
3. 次の授業をよくする

⇒繰り返すと，どんな学び方の学びにつながるかを学校内で共有する